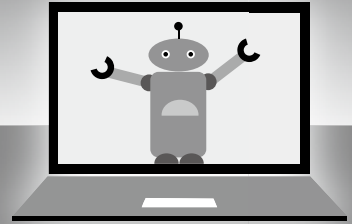


業務自動化「RPA」とは

RPA テクノロジーズ
和田 慎也、小山 拓也、田中 絵梨



日本市場にRPAの導入が進んだ背景

近年、日本が直面している少子高齢化に伴う生産年齢人口の減少問題、それに伴う労働力不足に対し、政府は課題解決に向け「働き方改革」を早急に進めている。この「働き方改革」における対応策の1つとしてRPAが目ざされ、2016年頃から大手金融機関での事例を皮切りに、エンタープライズ企業を中心に導入が進み大きなムーブメントとして市場をにぎわせた。経産省が警鐘を鳴らす「2025年の崖」*1問題でも語られているように日本社会全体の課題であるDX(デジタルトランスフォーメーション)推進への解決策として、現在では中小企業まですそ野は広がり、2021年5月時点で当社サービス「BizRobo!」単体でも導入社数は2,000社を超えている。

RPAの導入が進んだ背景に関してもう1点特筆すべきなのが、PC上で行われる業務の割合が増えたことだ。

総務省データによると、事務所のPC保有率は1996年～2004年にかけて62%から93%に上昇し、2017年時点で20～40代のインターネット利用率は平均で約98%という状況だ。2021年現在では、PCもしくはモバイル端末を使わずに事業を進めている企業を見るほうが珍しくなった。ほとんどの企業で勤怠管理や受発注管理、顧客情報管理、在庫管理などをExcelやシステム上で管理している。

PC上で業務を行うということはデータを扱うと

*1 DXレポート「2025年の崖」とは？企業の現状や課題点、対策方法を解説！

<https://rpa-technologies.com/insights/dx-2025cliff/>

いうことであり、データ化されている情報であれば、RPAで自動化できるということになる。つまり、日本国内の多くの企業で、このRPA化をできる環境が整っているといえる。

また、現在も伝票など紙の使用が残り続けているが、多くのIT企業が紙をデータ化する試みを進めており、最近では入社手続きや確定申告などの手続きまでPC上で完結できるサービスも普及しておりこの流れは加速している。

こうした状況の中で、PCで行われる業務は圧倒的に増加傾向にある。課題は紙をデータ化することからデータを効率的に処理することに移行しており、ITスキルを持ち合わせていない従業員でも、データを効率的に処理するためのツールとしてRPAがフォーカスされた。

業界としてみると、銀行や保険会社などの金融機関が先行して導入を進め、その後小売業、サービス業へと広がり、2017年下期からは製造業の導

図1 オンラインユーザー会BizRobo!CAMP!!
業界別申し込み状況

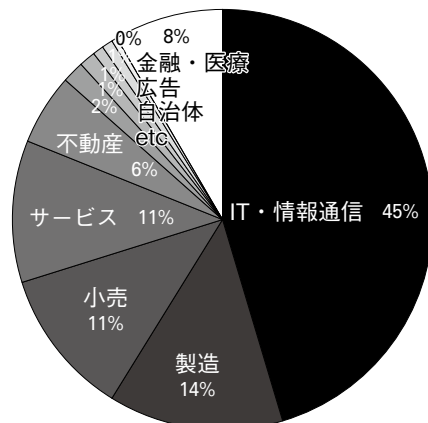




図2 RPA化されやすい業務例



入実績が目立つようになった。なお、昨年度当社で実施したオンラインユーザー会には1年間で約2,000名の方に参加いただいたが、参加企業の集計を見てみるとIT・情報通信業に続き、製造業のユーザー企業が増加傾向にあり、導入企業の多さだけでなく、導入後真剣にRPA運用に取り組んでいることが伺える(図1)。

ここまでは日本市場の中でRPAが浸透した背景について説明したが、次項にてRPAについても少し詳しく解説していきたい。

RPA とは何か

「RPA」とはロボティック・プロセス・オートメーション(Robotic Process Automation)の略で、ソフトウェア型ロボットによる業務自動化の取組みを指す。指示をした業務を時間通りに実行し、結果報告までをロボットが一通貫で行うため、人間に代わる労働力として「デジタルレイバー(Digital Labor)」や「仮想的労働者」とも呼ばれており、仮想社員として社員番号を割り振ったり、入社式を実施したりするなどの企業も出ているほどだ。

RPAは人間が行う業務の処理手順を操作画面上から登録することで、ブラウザやクラウドなどさまざまなアプリケーションを横断し業務自動化を実現する。現在ではさまざまな分野で活用され始めており、金融業をはじめ商社、サービス業、流通、小売、インフラ、製造業、不動産、自治体まで多方面でホワイトカラーの業務自動化を拡大し、

より広範な業務に対応できる技術として活用され始めている(図2)。

もはやRPAは単なるツールとしてではなく、「人」と「デジタルレイバー(Digital Labor)」で業務を分担・遂行し、コスト削減や売上向上などの企業活動に大きなインパクトを与えるビジネスプロジェクトとして、「年間数万時間削減」など大きな削減時間効果を謳った事例^{※2}が業界問わず数多く創出された。

ここからはRPAの機能について少し説明する。ひと言でいうと、人間がPC上で行っている業務を自動で実行するものである。業務の処理手順をロボットに記録させることで、ロボットはあらかじめ決められた通りに作業を行うことができる。

この自動化の対象となる業務は、単純作業やルーティンワーク、大量のデータ処理など多岐にわたる。たとえば、Excel上にあるデータをシステムに入力する、データとデータを比較チェックし、差異を報告する、システムから取得したデータをPDF出力する、複数データを集計し指定のフォーマットに加工する、などの業務が対象となる。

また、RPAの特徴として、人間と違いロボットは24時間365日稼働することが可能である。人間が働く場合を考えると、法定労働時間は1日8時間×週5日と定められており、フル稼働したとしても40時間が限界となる。それに比べてロボットは業務に従事する時間が圧倒的に多く、こなす業務量も増えることから、生産性の向上につながる

※2 BizRobot導入事例

<https://rpa-technologies.com/case/>